

## 第21回 口腔機能って何だろう？

＝ 「口腔機能」は、感覚機能の改善によってその機能は改善される ＝  
(その3)

北九州在宅医療・介護塾  
塾長 久保 哲郎

前回は、口腔機能改善を図る方法に関連して「感覚機能改善(その2:五感の特性)」について紹介しましたが、今回は「感覚機能改善(その3:五感の刺激)」について紹介します。

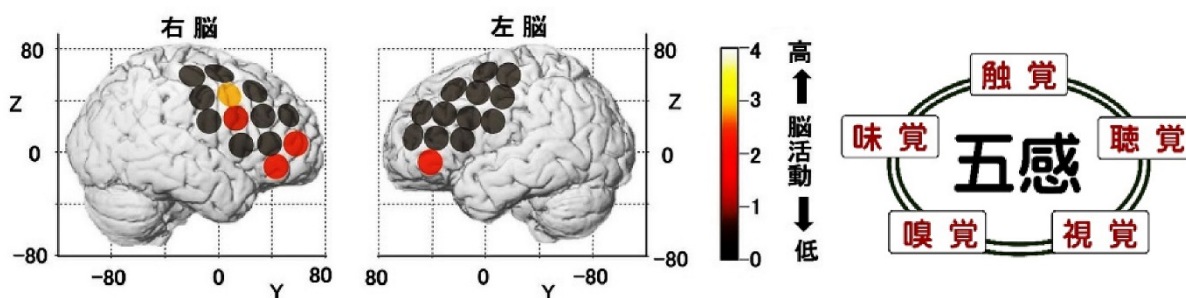
北九州市小倉北区の某病院では、専門的口腔ケアに五感の刺激を加えた「口腔リハビリ」に取り組んでいます。この病院では、触覚については顎・顔面・頸部・四肢へのマッサージ、聴覚についてはケーナ演奏で童謡や叙情歌を聞かせる、視覚についてはご本人の趣味等について印刷したカードを見せる、嗅覚については煎ったコーヒー豆の香りを嗅がせる、味覚については蜂蜜を味わわせる等を、「心地よく」感じているかどうか、顔の表情を観察したり、問い掛けをしながら五感刺激を行っています。

ところで、「心地よい感覚刺激」によって前頭前野領域に活性化がみられたとの報告

がありますが、このことは感覚機能→認知機能→口腔運動機能のプロセスが視覚的に理解されると評価できます。

さて、“療養の場”においては、触覚は、口腔内や全身に対する清拭圧や強さ、食材の硬さ等、聴覚は、口調、声の大きさ、話す速さやアクセント等、視覚は、介護者とご本人の物理的な距離、身振り、手振り、顔の表情、視線や目つき、介護者の服装等、嗅覚は、“療養生活の場”に漂う臭い、ご本人の口臭、シーツや着衣の臭い等、味覚は、飲食物の味等、これ以上に様々な五感情報が24時間通じてご本人の身体に直接入ってきており、そのため、「病状改善への意欲」や「療養生活に対する質の向上」を療養環境の中で求めるためには、五感(特に、聴覚・視覚・嗅覚)を視野に入れた「心地よい居場所づくり」が重要となり、今一度「心地よい居場所とは」について考えてみてはどうでしょうか。

### 感覚刺激が脳の<sup>前頭前野</sup>を活性化する



(食品総合研究所,2006)

**触覚 > 聴覚 > 視覚 > 嗅覚 > 味覚**